

JAPAN URBAN DESIGN  
INSTITUTE

## 都市環境デザイン会議

東京都文京区本郷2-35-10  
本郷瀬川ビル TEL113-0033

TELEPHONE 03-3812-6664

FACSIMILE 03-3812-6828

# JUDI

## 095

20.MAY  
2008

特集 大学と地域の連携のまちづくり

発行者:都市環境デザイン会議 広報・出版委員会

### ●特集:「大学と地域の連携のまちづくり」

巻頭言	1
1. まちづくり・地域と大学の連携	2
2. 受賞作品の紹介	9
3. 提案一覧と概要	15
4. 「府中インターユニバーシティ」に参加して	17
5. 問われる連携の質	19
●事務局より	20

### 卷頭言

## 時代性と問題点

土田 旭  
TSUCHIDA AKIRA

(株) 都市環境研究所

建築・都市計画分野で地域社会との接点をもとうとする教員や大学院生が、他分野に比して多いのは伝統的ともいえる。ことに地域研究がテーマだったり、たとえば歴史的まちなみの保存・再生の初動期などでは、大学が主導し、やがて地域との関係が深まるようなことはよくあることだった。教育の一環としても、地域に題材をとって研究室単位で大学院生のトレーニングをしたり、地域に計画設計の題材を求めるることはこれまでよく行なわれてきた。今日では地域が主体となる“まちづくり”活動も一般化していく、地域と大学あるいは専門家との関係は一様ではない。われわれまちづくりに携わるコンサルタントが、頼まれもしないのに地域に深入りをし、住民から逆に怪訝に思われることもある。銀座の松坂屋問題や下北沢の駅周辺地区のまちづくりなどでは、ミーティング出席者が地元の方より大学の先生やコンサルタントの方が多い場面もしばしばである。

このような現象はまちづくりにおける新しい局面ともいえ、専門家への期待とともに、専門家の側からは自らの専門性にたいする危機感がそうせしめているともいえる。このような状況を一步でも進めるために、大学あるいは専門的機関と地域あるいは市民、住民との連携をより深めていく試みがなされねばならない。地域にとって、地元の大学であれば、これまで、地域と大学は親密でありたいという願望は強く、ユニークな大学祭ともなれば、里親気分で一寸覗いてみたくなるのは昔も今もそう変わらない。町おこしの一環として、例えばジャズフェスティバルに社会人のバンドに伍して、複数の大学のジャズバンドが街のあちこちで聴衆を集めといった風景はこれまでにもあった。どちらかといえばこの方がそれこそお祭り気分で賑やかであり楽しくもある。しかし、今回のように複数の大学間で競い合って地域の（主として中心部の）まちづくり提案をしてもらおうという試みはそう多くはない。果してうまくいくかどうか、結果としてうまくいったかどうか

は皆さんの判断に委ねる。東京の多摩地域には30をこえる国公私立の大学がある。その多くは、大学の拡充に伴って全校あるいは一部を移したもので、八王子を中心に立地するキャンパスが多い。しかし都区部西部の大学あるいは、多摩川の対岸、すなわち川崎、相模原にある大学を加えるともう少し多くなる。いずれにせよ建築学科あるいは環境デザイン学科などをもっている大学だけみても20近くになるというわけで、大学相互間のネットワークという点からみると府中の地の利は好適に思えた。そのうちいくつかの大学にいる友人に声をかけるうちに、アメリカでは複数大学による地域共同研究ないし提案がよくあるとアドバイスを受けた。また、学部の課題にしたいという大学や大学院生に任意参加させるよう言っておくという先生も出てきて、踏ん切りをつけたわけである。

府中市にとっても、古代の国衙の跡が出てきた大国魂神社境内と中世以来の参道のけやき並木はシンボル空間であり、中心市街地の今後のあり方とどう折り合いをつけていくかが、直面する大きな課題になっていた。市も関心はもっていたが、あまり現実的かつ専門的な提案が出されると対応に困るといった感じであったが、基本的には協力的であった。学部学生の演習あるいは大学院生のグループ提案というレベルであつたことでそう心配することもなかったのは良かったというべきか、残念だったというべきか迷うところである。再開発事業で苦労した商業者や関係者は、久しぶりに若い人たちの熱気が感じられて良かったという感想をもつたようである。ここでもこれまでのわれわれの活動がいくらかは効いているのかもしれない。中味は後にゆずるとして、面白かったから毎年やらないのかと応募する側の先生に言われました。しかし一市民団体としては、予算面での苦労もあるが、さすがに毎年は無理で、ヴィエンナーレかトリエンナーレがよいところであろう。

# まちづくり・地域と大学の連携

## 東京「府中建築文化フォーラム」の試み

安部 貞司

ABE TEIJI  
(株)日本設計  
「府中建築文化フォーラム」

### (1) はじめに

東京の府中市で、まちづくり活動をおこなっている団体「府中建築文化フォーラム」は、府中に在住・在勤の、建築家、都市計画家、環境デザイナーなど街づくり分野の専門家の集まりです。自分たちが住んでいる町の街づくりについて、専門家であり住民という立場で市民と一緒に地域資産を活かした街づくりや景観について考えてきました。その活動は12年になります。その間、人口減少社会が本格的に到来し、都市計画やまちづくりの方向も急速に変化しつつあります。開発基調から空間の質向上、自然環境保全（環境共生）、既存施設の維持管理・再利用などの重視、効率性とスピードから、人が主体となった持続的で地域の文脈や歴史を重視した、市民が実感できる都市づくりへのパラダイムシフトなど、確実に新たな展開がおきていることは日常の中で感じていることです。

2005年には、いわゆる「まちづくり三法」が改正された。今回の改正の柱は都市計画法の改正であるが、将来ビジョン、住民参加や情報開示のあり方など都市計画の原点の議論が行われていないのは残念である。しかし、都市のにぎわいを促すように制度を整備して高齢社会を視野に入れたコンパクトなまちづくり、住みやすい都市の姿を模索することは重要であろう。

三年前には景観法が制定された、景観を創造することに対する自由度を法的な手段でどこまで保障できるかという課題は残るが、景観という価値を市民が大事にして美しい景観や街並みをまもり、魅力的な都市を創ろうといった自分達の住んでいるまちの景観向上や街づくりへの成熟した社会での意識も高まってきたといえる。醜い景観がようやく認識され「美しい」景観の再生、文化的固有の風景が消失している危機認識を暗に示している証しとも言える。

特に歴史資源を多く有する府中においては、それらを活用した街づくりは重要課題である。

そのような時に、「府中建築文化フォーラム」が主催して多摩地域・東京西部の大学と連携して府中のまちづくりや景観整備を考える「府中インターユニバーシティ2007」が開催された。

### (2) 地域社会における大学の役割

近年、大学と地域が連携したまちづくりワークショップは各地で試みられるようになってきたが、その背景には、大学を取り巻く

環境の変化もある。従来は学内の研究活動をとおして大学の知名度を高めることが成果だったが、近年は大学改革のなかで開かれた大学づくりが叫ばれ具体的な成果が求められ、地域への貢献はより具体的な連携も試みられている。地域の大学への熱い視線と期待の高まりともいえる。

多摩地域では、町田・相模原ではエリアの大学と連携したまちづくりが、国分寺市と東京経済大学が連携した学生参加による街づくり、国立市では一橋大学の学生・地域・大学のコラボレーションをベースとして地域を学びのステージとするまちづくりの授業が行われている。そのほか、八王子市、多摩市などが、まちづくりや地域再生に学生の知恵を生かそうとの試みで活性化策を学生から提案を受けている事例などがある。

大学と地域が連携したまちづくりワークショップのテーマについて、大西隆教授（東京大）が次のように整理している。

#### ① 学生と地域が協働したまちづくりと大学キャンパスを活かした文化拠点の創出

- ・ 地域を題材としたフィールド授業
- ・ フィールド授業から発展した学生のボランティア活動
- ・ 空き店舗を利用した「まちなかキャンパス」による学生と商店街の協働イベント開催
- ・ 文化施設と一体化した市民開放型キャンパス

#### ② 大学の地域課題解決への取組みと学生の活力を活かしたまちづくり

- ・ 学生主体の事業が発展し、社会活動支援やNPO法人の設立
- ・ 学生の視点から中心市街地活性化に対して、調査・研究・提案を行う組織化
- ・ 「まちづくり拠点」を街なかに設置し、商店街と連携したイベントを実施
- ・ 学生のまちなか居住の促進

#### ③ 都市ブランドの創造とフィールドワークによる都市マネジメント教育

- ・ オープンカフェ、フリーマーケット
- ・ 福祉サービス等の社会実験を展開（大学・商店街・市民・行政の連携）
- ・ 都市の再生をマネジメントする人材を育成する新しい教育システムの構築

#### ④ 大学と地域の連携による芸術・スポーツのまちづくり

- ・ 教員によるサッカーやテニスの教室

- ・空き店舗を活用した美術作品展
- ・高齢者を対象とした健康教室の開催
- ・キャンパス内に彫刻、木工、絵画といった芸術分野で使用するアートファクトリーなどの施設を整備し、市民が出入りし、交流・学習の場として活用

#### ⑤ 大学と地域の包括的な連携による広域的な課題への取組み

- ・市町村との協働による大地震等に対応した防災研究活動
- ・地域連携センターの設立
- ・地域協働まちづくりリサーチセンターを設立
- ・学生が中心市街地の空き店舗を利用したチャレンジショップを営業

### (3) 「府中インターユニバーシティ 2007」

「府中建築文化フォーラム」が主催して多摩地域・東京西部の大学と連携した「府中インターユニバーシティ 2007」は、前述の公大連携の事例とは異なり、市民団体と大学が連携して実施したものである。東京農工大、明治大、日本大、多摩大、工学院大、東京電機大、女子美術大、武蔵野美術大、文化女子大、の学生や研究室が参加して府中の歴史遺産のまちづくりへの活用策、中心市街地の活性化策など府中の魅力的なまちづくりに寄与する提案が出された。

「\*指導教員：千賀裕太郎（農工大）、山本俊哉（明治大）、宇杉和夫（日本大）、望月照彦（多摩大）、倉田直道（工学院大）、柴田滝也（電機大）、中嶋猛夫（女子美大）、井上搖子（武蔵野美大）、谷口久美子（文化女子大）」

府中市は、馬場大門のけやき並木沿道の街並み景観づくり、駅直近の市街地再開発事業、旧甲州街道の街並み整備、各種公共施設の整備、用水・水と緑のネットワーク、文化資産を活かしたまちづくり、景観計画の見直しなどの市域全体の景観整備等々、中長期のまちづくりの課題も少なくありません。

とくに、府中市の今後の課題は空間の質的向上が何より大切です。そこで、府中市の外から見た時、どのような可能性あるいは検討すべき課題があるのか、専門家の先生や学生と意見交換を行うなかから新鮮な指摘と提案がされることを期待して多摩地域・東京西部の大学間連携プログラムによる、府中のスタディと意見交換によるまちづくりセッシ

ョン「府中インターユニバーシティ 2007」を企画しました。

建築、都市計画の学科に限らず社会学系の研究室にも参加を頂き、大学での教育プログラムあるいは大学院での計画研究として「府中の快適空間、魅力の発見とパワーアップの提案」を設計授業や研究の共通課題として取り組んで提案していただきました。その前段で、4月22日には参加大学の学生約150人と先生達が一緒になって府中の課題見つけと、まち探検を行いました。

それらを基に検討・スタディが行われ各大学より選ばれた32の提案作品が提出されました。7月16日から一週間、市のギャラリーで市民に展示公開とアンケートを行ってきました（アンケート結果の詳細は報告書に記載）。



写真1 まち探検の様子

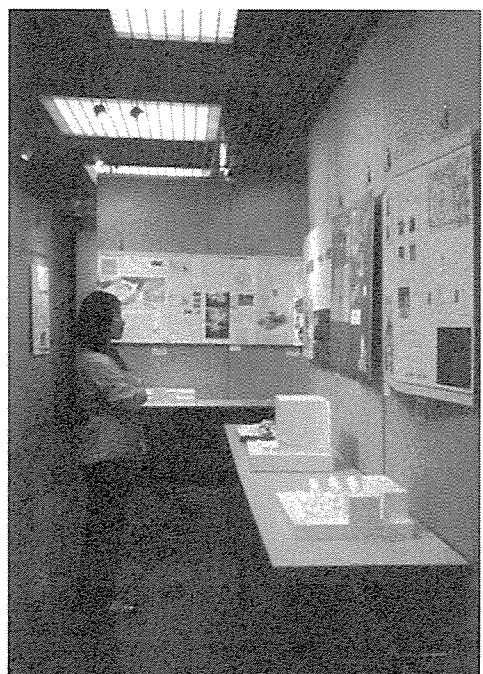


写真2 市民ギャラリーでの展示公開

7月21日に、その提案の発表会とシンポジウムを開催しました。発表は各大学が2作品を選考し、計21の提案の発表が行われた。その後、コメントーターとして東京農工大学教授（府中市景観審議会）亀山章先生と各大学で指導した教員と市民によるパネルディスカッション形式の意見交換と講評・審査会を行い最優秀賞、優秀賞、奨励賞が決定した。

また、展示会場での市民アンケートで評価の高かった提案には、特別賞が授与された。聴衆の多くは市民であるが意見交換では、建築やまちづくりを志望する学生や会場に参加した多くの専門家も交えて大変面白い議論があった。

- ①「大国魂神社前の馬場大門ケヤキ並木の街並みの魅力向上策」（最優秀賞・明治大院生）
- ②「競馬場やその周辺の整備・活性化策」（優秀賞・文化女子大）
- ③「携帯電話を活用したナビゲーションシステムの提案」（優秀賞・武蔵野美大）
- ④「国際通りの活性化・魅力向上策」（優秀賞・東京農工大）
- ⑤「国府と用水を活用したエコミュージアム構想」（特別賞・日本大）

府中の大学間連携プログラムの場合は、府中市の市民提案型市民活動支援事業として「府中建築文化フォーラム」が主催して、建築、都市計画に限らず社会学系も含めた全大学が連携して教育プログラムに位置づけて共通の設計課題、計画研究として「府中の快適空間、魅力の発見とパワーアップの提案」について検討して、大学間で競争的に提案を行うことが特徴である。

地域を知る人達は、難しい問題や課題があることを知っているだけに具体的に成り難い場合があるが、実務社会と距離を置いた学生の提案は、「あると良い街の姿を描き」しかもその仕組みまでも提案している独自性にある。

今回の経験から、大学と地域社会との関係は、あまり互いが補完しあうのではなく緊張感をもって協働するところに大きな飛躍があるように思えた。

指導の先生と取り組んだ学生には大変な作業となったが、地域の大学の「現場生成型教育」といっても良い今回の成果を、学生が直接市長や市民の前で提案するという非常に刺激的で重要な企画であったと思われる。何よりこの3ヶ月間に延べ1000人以上の学生が府中を知ろうと市内を踏査したことは、府中市にとっても素晴らしい出来事であった。少子高齢化で若者の姿が見えにくくなった中での貴重な若者発見の場となった。

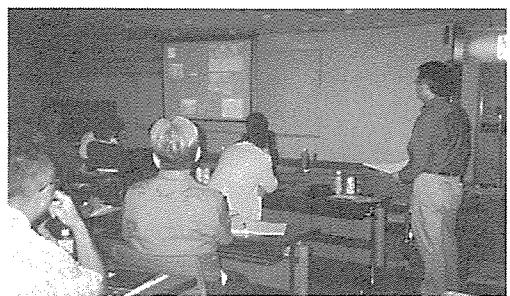


写真3 提案作品の発表



写真4 会場の様子



写真5 「府中インターユニバーシティ 2007」表彰式

#### (4) 「府中の快適空間、魅力発見とパワーアップの提案」の概要

##### 1) 提案内容：

府中の魅力的なまちづくりに寄与する提案（例えば）

- ① 中心市街地の活性化に寄与する提案
- ② パブリックスペースを魅力化する提案
- ③ 大国魂神社馬場大門けやき並木の街並みに対する提案
- ④ 府中の歴史的資産を活用する提案

##### 2) 計画範囲：

大国魂神社、馬場大門けやき周辺の中心市街地

##### 3) 経過：

- ① 2006年12月16日（土）各大学の指導教員の合同会議
- ② 2007年4月22日（日）提案予定学生への説明会・まち歩き開催  
図1に、当日作成した「府中まち歩きマップ」を示す
- ③ 2007年7月16～21日  
提案作品の展示・公開
- ④ 2007年7月21日（土）  
提案発表とパネルディスカッション

##### 4) 参加呼びかけ大学：

首都大 農工大 法政大 明治大  
明星大 日本大 工学院大  
多摩美術大 武蔵野美術大 中央大  
東京造形大 女子美術大 東京学芸大  
東京工芸大 東京工科大 実践女子大  
共立女子大 東京家政学院大 ICU  
文化女子大 東京電気大 一橋大  
東京外語大 多摩大 東京経済大

##### 5) 提案の趣旨：

府中は景観・まちづくりに活かしたい資産がたくさんあります。

府中は首都圏の一角にあり、武蔵野の丘陵と平野のエッジにあり、穏やかな自然に育まれた、住みやすい環境の中で首都近郊の中核都市として発展してきましたが、まだ自立性を保持し恵まれた地勢歴史的伝統のあるまちです。古代の武蔵国の国府が置かれ東山道武蔵路や国分寺の創設、鎌倉防衛の重要な位置を占め、近世においては宿場町として、穀倉地として栄えてきました。そして7世紀中頃といわれる武蔵府中熊野神社古墳（上円下方墳）の発見は国府設置前の古墳時代末期にはすでに行政拠点となっていたといわれています。遺跡が残るだけではまちづくりにつながりません。多摩川、崖線、街並み、用

水と共に歴史が重層して面的に展開する文化資源・都市型遺跡を保存・活用したまちづくりは府中の課題です。

府中について研究室や学生グループからは、府中のまちづくりを考えるヒント、課題やあり方などが多く提案された。以下に指導教員と学生からの提案のコメントを紹介する。

##### ■ 府中のまちづくりを考えるヒント

###### 1) 街なかでの見えにくい文脈を探り出すこと

###### ①歴史・文化・自然の文脈を見つける

（地の系、自然の系、歴史・文化の系）

###### ②まちの構造の特徴

- ・府中のまちには動脈と静脈がみられる
- ・近代の都市計画や道路整備により機能的に動脈が作られ、それに沿って建物が建てられた
- ・府中のまちには、間がりくねった、自然発生的な界隈性のある細い街路（静脈）がめぐり、まちの原型を残している

###### 2) 府中のまちづくりにおける3つの課題

- ・動脈に手を加え、都市のシンボル性を、さらに高めていくこと
- ・静脈を再発見し、再生し、まちの魅力にしていくこと
- ・府中仕様のまちづくり・建築のルール化

###### 3) 府中のまちづくりのあり方を考える

###### ① まちの貴重な資源を活かし、人々（市民・来街者）をまちに引き寄せる

・「都市観光」としての新しい概念

###### ② 快適歩行空間都市づくり

- ・細い道路、曲がりくねった道路、路地などを歩行空間として活用し、まちなかに埋もれている魅力を再生しネットワークさせていく
- ・高齢化社会、都市観光の場にふさわしい都市交通

###### ③ 街なかに緑を増やす

- ・府中の自然の文脈を見つける。昔の府中の原型を見つめる
- ・府中のふるさとの森づくり（都市の森、街なかの森を繋ぐ）

###### 4) 建築に何が出来るか

###### ①建物を作ることが、同時に府中のまちの歴史・文化・自然を再生することにつながるしくみを考える

・敷地の共同利用により、魅力資源の保全・創出をはかる（個々の敷地に個々に建物を作っていくという方式を変える）。

・府中の街のコモンスペースの創出

## ② ケヤキ・自然・歴史等と建築との関係性をつくる

- ・ ケヤキの高さを超えた建物を作らない（容積移転、容積買取の制度）
- ・ 緑地を建築で遮断させない歩行空間の連続
- ・ 建築の中に歩行空間、街なかの静脈に歩行を誘う
- ・ まちなかの地域資源を建物で包み込んだり、共生させていくイメージ
- ・ ケヤキ並木沿道に広場を作りオープンカフェ、イベント、祭り等の空間づくりを行う

## ③ 都市の構造再編と建築との関係

- ・ 府中本町と府中駅の歩行ネットワークづくり（障害となる建物を街区に集約）
- ・ まちの中の、いやなものを建物に集約（駐輪場など）

### （6）「よそ者・若者」の視点で発見される地域の魅力

故郷への帰省を兼ねて久しぶりに新潟県の魚沼を訪れた。中越地震で破壊した我が家は新築なったが、町を歩いて愕然とした、びっくりさせられた光景は、シャッター通りに悩む地方都市の再生は注目されているが、現実はそれ以上の町がほとんどではないかと思われるまちの姿を目にした。

昔から京都とのつながりも多く、魚沼の小京都といわれ伝統芸能や祭礼行事など価値の高い文化財が多く伝承されている、歴史的佇まいと一年中文化財的行事が行われた町は見事に何もなくなっている。雁木で繋がった街並みは閉店し、店舗がハーモニカ状に駐車場となり、かつては、どの地方の駅前でも目にした運送会社は集約化によって撤退し跡地は原っぱとなっている。

その中に「よってけ亭」という空き店舗を利用した商店主やおかみさんたちが運営している地域交流施設を発見した、自發的活動と意識改革の努力の結果であろう。

町に東京から移住した人の地域での活躍の話も聞いた、地域住民との気負いのないコミュニケーションと愛着であろう、上からの押し付けでない発想で、地元へIターン、Uターンした人たちが町を再生させ村おこしの力となっている例は多い。「雪や広大な自然は」南国の人的心をとらえ「伝統的生活の知恵」は省資源の原型であったり「無形文化遺産は」日本文化のルーツ、「雪国の遊び方」「一店一品運動」などがある。

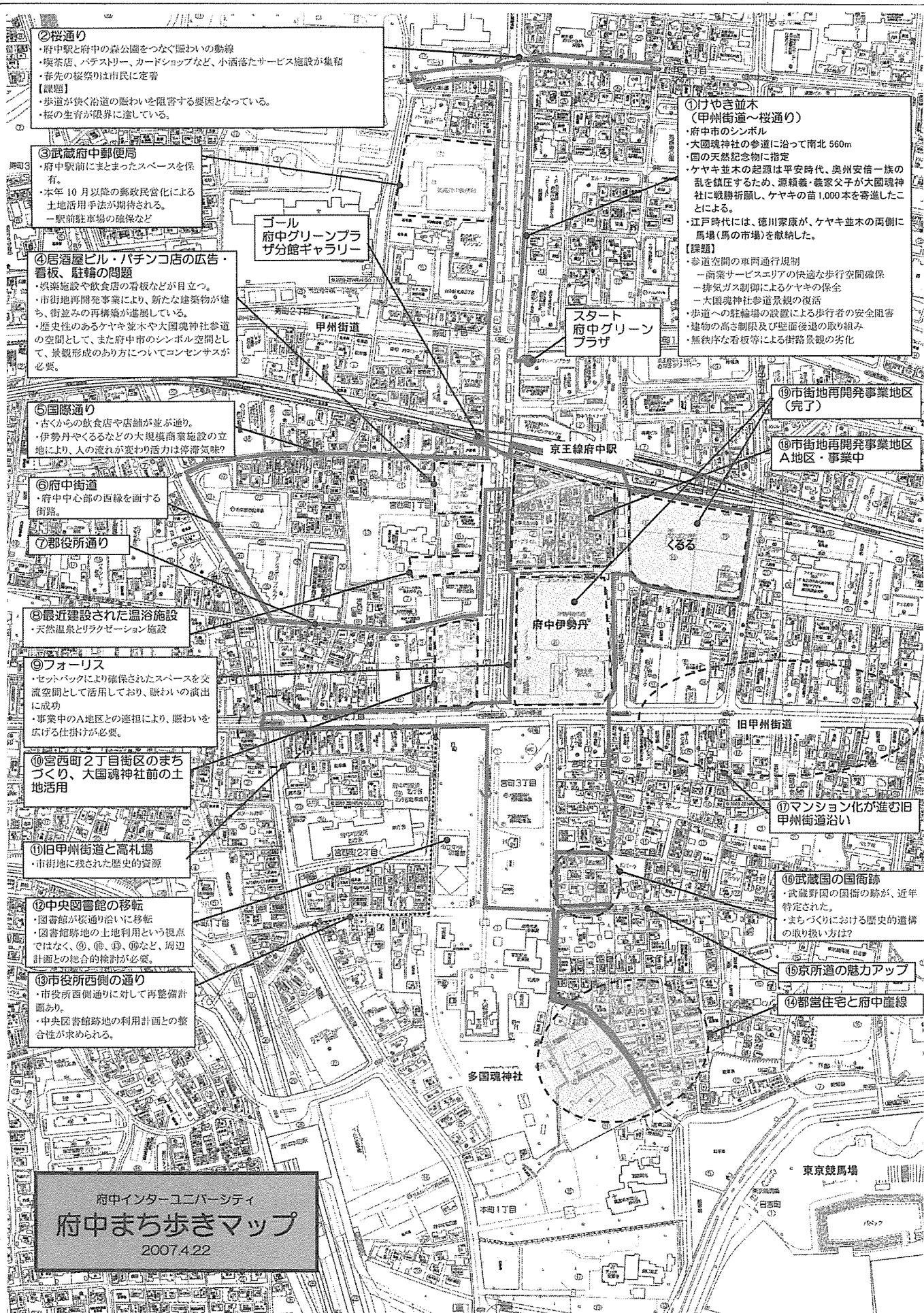
地方だけではない、都市でも地域の魅力に自分たちは気づきにくい「府中の快適空間、魅力の発見とパワーアップの提案」のように「よそ者」「若者」の目で発見されることは多いのではないだろうか。府中市のようにまだ自立性を持っている町では、市民がまちに抱くまちの魅力・愛着心やまちづくりへの希望が市民力となって大きな力となる、地域文化の発見と発信、改革への参加意識が何より重要となる。

府中市は4月1日から景観行政団体として景観計画、景観ガイドラインの運用を本格的に始まった。景観や環境の破壊といった課題にたいして効果はいまだ未定ではあるが、周辺自治体においても地域のルールづくりの新しい展開が始まっています。

歴史ある町の多くが抱えている保守的な体质、守旧的な姿勢にとらわれることなく、新しい時代のまちづくりに今回の「府中インターユニバーシティ2007」で提案された若いアイデアを地域や行政がどう考えていくかの力量が今後は問われることになる。

地域のことは地域住民が小さなルールと熱意で小さなことから考えたいとする「価値観」は市民との連携がますます不可欠な時代となっていました。市民と協働しながらその地域を創ろうとする府中建築文フォーラムの活動は、これから一つの方向性を示す実践でもある。今回の、地域の大学との連携「府中インターユニバーシティ2007」は、連携の仕方、課題と展望など今後のまちづくりを考えるモデルケースになるか注目される。

図1 「府中まち歩きマップ」



## 参考資料

### 「府中建築文化フォーラム」の活動について

府中住・在勤の、建築家、都市計画家、環境デザイナー、研究者、学生など街づくり分野の専門家の集まりです。自分たちが住んでいる町の街づくりについて、専門家であり住民という立場で考えて、考えながら歩いて、1996年から始めた市民と一体となった活動は12年になります。その間の実践的活動については、景観やまちづくり問題の時代背景もありマスコミなどにも取り上げられ、各方面で注目されています。

\* 1998年から1999年に、府中の良さを発見し街づくりに活かしたいとの主旨で、市民と「街づくり探検隊」を結成し府中らしさ発見ウォークを実施しました。3年がかりでその良さをまとめた「府中らしさ発見マップ」全5編を完成しました。自分のまちを知るマップづくりや総合学習が始まった年であり、学校の先生、自治体からの問い合わせが多い。

\* 2000年から2002年は、まちづくり分野を専門とするメンバーが講師となって「街づくり市民塾」を11回開講。併せて各方面の専門家を講師に連続「市民シンポジューム」を3回開催し、2年間にわたり地域資産を活かした街づくりや景観について市民と共に考えてきました。まちづくりの勉強塾は、当時はまだ貴重な事例であり、市民が主催していることはさらに注目される。

#### 市民塾講師：

土田旭 安部貞司 青山直幸  
稲田信之 落窪一人 高谷時彦  
湯浅栄理子 岡田雅代 秋元優子  
大島光博 佐藤浩美

#### 市民シンポジューム講師：

中野恒明 田代勇生 亀山章  
田口敦子 吉田慎吾 近田玲子  
倉田直道 望月照彦

\* 2001年から、周辺地域とのネットワークの必要性から「多摩川まちづくりネットワーク」の設立に中心的に参画し、「多摩川街づくり会議」を毎年開催しています。「多摩川まちづくりネットワーク」は、多摩川を軸とした地域で、地理的、歴史的に関わりが深く、生活環境が似ている中流域7市（日野、国立、府中、多摩、稲城、調布、狛江）で活動している団体のネットワークプロジェクト）

\* 2003年に、これまでの活動や成果をまとめた冊子2冊を発刊しました。

(VOL1・府中の歴史と自然を活かして  
VOL・2府中のまちのデザインに向けて)

\* 2004年 第一回「府中市都市景観賞」のまちづくり活動部門を受賞

\* 2005年 日本建築学会主催の「都市建築の発展と制御に関する設計競技」に府中建築文化フォーラムのメンバーで応募。斜面緑地と屋敷林を内包する都市建築の再構築、都市緑地のあり方をテーマとした「府中崖線・はけの道の再生」が入賞

\* 2004年から2005年は市民を募り、3つのテーマで「市民が考える、府中のまちデザイン」の市民ワークショップを行ってきました。府中の資産である多摩川、崖線、ケヤキ並木、旧甲州街道の街並み、用水、を活かした街づくりについて検討しました。

\* 2005年3月に、ワークショップの成果を「府中の景観とまちづくりを考えるシンポジューム」で発表。報告書「市民が考える、府中の景観・まちづくり」を発刊。市民が主体的に街づくりを考える市民力を示す。

\* 2006年1月に野口忠直府中市長に「市民が考える、府中の景観・まちづくり」について市民提案を行う。その後に、府中市が景観行政団体となって積極的に景観行政を推進する助力となる。

\* 2007年は、多摩地域・東京西部の大学と連携した「府中インターユニバーシティ2007」を開催した。

11大学の学生から「府中の快適空間、魅力の発見とパワーアップの提案」が行われた。7月に府中の魅力を発掘する32の提案を市民に展示・発表と、パネルディスカッションを開催し優秀提案を選考。

\* 2008年3月に、学生からの「府中の快適空間、魅力の発見とパワーアップの提案」をまとめた報告書を、野口忠直府中市長にプレゼンを行う。「大国魂神社、馬場大門けやき並木周辺の魅力向上」や「公共空間の活用策」などについて、今後の府中市景観計画などへの検討が期待される。

## 受賞作品の紹介

受賞作品のうち代表的な作品と、提案者が考える府中のまちづくりについて、以下にその概要を紹介する。

なお、この概要は府中建築文化フォーラム編集の府中インターユニバーシティ2007報告書『府中の快適空間、魅力の発見とパワーアップの提案』に記載されたものを参考にとりまとめたものである。

### (1) 最優秀賞

「けやき並木と生きる」(明治大学大学院) (作品 No. 16)

提案内容 :

歴史を培ってきた府中の大きなケヤキ並木であるが、通り沿いの建物や看板、ストリートファニチャーなどがケヤキ並木に対して配慮を欠いているとして、この並木道を管理し、価値の維持向上を図るシステム、実空間としてのハードをどのように整備していくのかというプランを提案したものである。

魅力的な並木通りを継続して維持管理を行うための第3者機関(BID: 地区改善のための資金調達の仕組み)の導入。具体的には地権者の拠出による資金を活用しPPS (Project for Public Street) を雇用する。Clean&Green という理念のもと、ケヤキ並木の清掃、植栽管理、イベント業務等の活動をすることなどを提案している。

また良好な通り沿いの景観を形成するためのガイドラインも提案した。

府中には千年以上にも及ぶ都市形成にも変わることなく残り続けた大国魂神社とケヤキ並木の参道があり、この美しく気持ちの良い空間の価値を認識することで、住んでいる人たちが府中に誇りを持っていくことをめざした。

### (2) 優秀賞

「国際通りに活力を」(東京農工大学)  
(作品 No. 8)

提案内容 :

国際通りで店を経営しているオーナーに話を聞いたり、人通りのカウント調査をして、通りが衰退している現状を知ったうえで、魅力的な国際通りをつくるための提案を図のようにまとめたものである。

### (3) 優秀賞

「競馬場付近の活性化」(文化女子大学)  
(作品 No. 13)

提案内容 :

2003年東京競馬場がリニューアルオープンし、競馬場周辺は奇麗に整備されたが、そこに並ぶ飲食店は景観と合わず、平日は人通りも少ない。市民が気軽に利用できるような環境にするために、新しい客層を増やし、活気と明るさを作り出すための提案を行った。

### (4) 優秀賞

「Enjoy Your Road!!  
—携帯ナビゲーションシステムと  
府中オリジナル散策ブック」  
(武蔵野美術大学) (作品 No. 20)

提案内容 :

市役所などに置かれている『府中伝説の道』のマップを見ながら府中市を歩いても途中で迷うことがあるため、誰にでも分かりやすい府中のマップを2つ提案した。

1つは、携帯電話を使ったナビゲーションシステム。もう1つは、自分だけのマップを作っていく府中散策マップである。

### (5) 特別賞

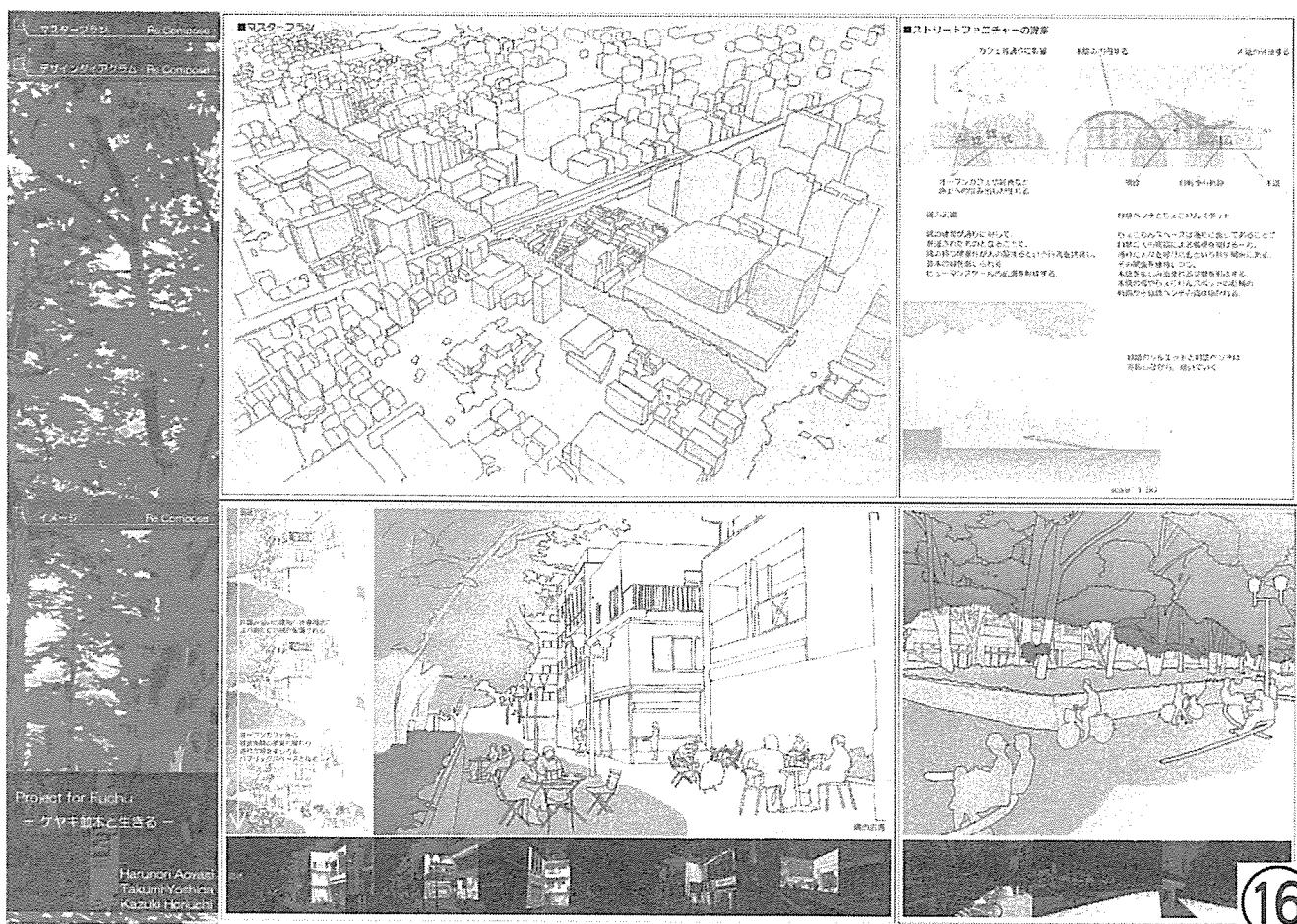
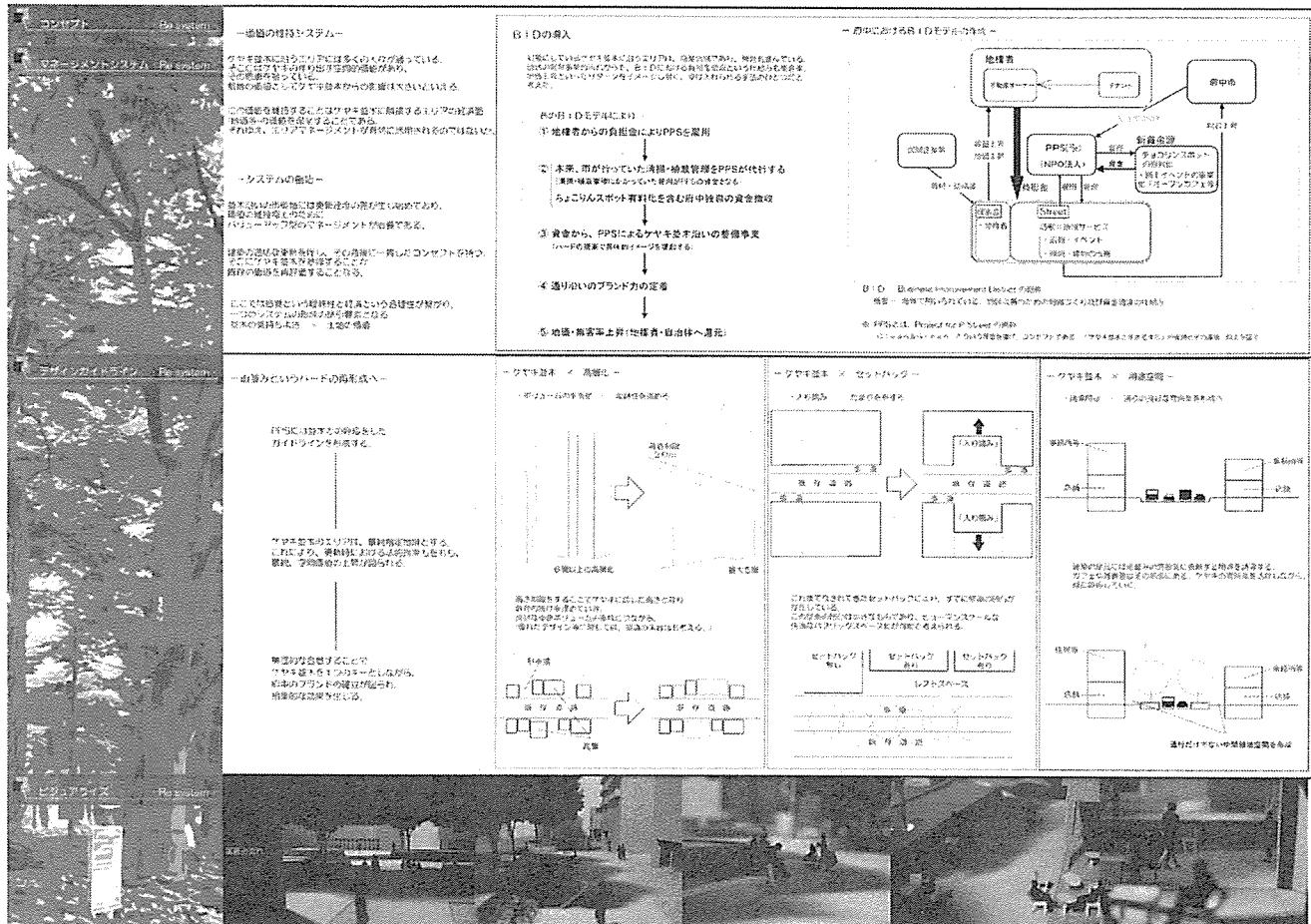
「府中田園エコミュージアム  
—国府と用水路への回帰」  
(日本大学) (作品 No. 9)

提案内容 :

府中の歴史や自然を体験・学習できる施設の提案で、同大の宇杉研究室の18年度卒研究生の「府中田園エコミュージアム—歴史と用水路への回帰—」をもとに施設の提案を行った。

例として、東京競馬場内の通路を府中の歴史や用水路、崖などの自然を勉強する展示スペースにし、そこから観客席側に武蔵国府や浅間山などの山々が見渡せる「多摩府中景観学習ギャラリー」、競馬場内を見渡せ、用水や自然を感じながら学習・食事ができる「環境学習交流水辺公園」などである。また宇杉准教授によって作成された国府地域の図を参考に、歴史的な寺の位置関係や、山々からの視線を重視して施設の配置をした。

ケヤキ並木、大国魂神社、連光寺の山をつなぐと南北の軸上にこの3つが連なり、この軸を府中の歴史、自然的な観点から見て重要視し、この軸上に施設配置を行った。



# 国際通りに活力を

～地域交流の拠点としての商店街を目指して～

東京農工大学4班 畠藤正佳 中原一成 村上耕郎 深川茂

## 1. 計画の背景と目的

**目的：**「地域の人たちが高い関心を持つ、魅力的な国際通りをつくる」

府中駅周辺のけやき通りなどは開発が進み、府中は快速道路で住まい街としての地位を確立しつつある。しかし、府中駅周辺は大規模な開発によって地域と密着した開発は行われていない。そのため、府中駅周辺には地域と密接に結びついた交流の拠点が必要である。府中駅に近い国際通りは魅力ある地域密着型商店街になれば、府中の地域交流の拠点となるだろう。

### 国際通りとは？



国際通りは府中駅近くに位置し、けやき並木と府中街道を結ぶ商店街である。現在は人通りが少なく活気欠ける印象を受けている。



### 国際通りの歴史

昭和30～40年代、この通りには「国際」という映画館があったため「国際通り」と呼ばれ、栄えていた。その後、映画の多様化に伴い映画館は閉鎖し、ピンクサロン街となっていた。そこには暴力団事務所もあった。このため、当時は子供や女性が通れない通りであった。その後ピンクサロン廃絶運動なども起こり、徐々に現在のような姿となった。

### (2)国際通りの人通り



・駅前から見ても、けやき並木を歩いていても、入り口の看板が目立たず国際通りに気がつかない。  
・入り口付近に活気がなく、入ろうという気にならない。  
・駐車場が点在することや、マンションが存在することにより、商店街だが店舗の無い部分があり、通りとしての連続性が断ち切られている。

**結論：**「国際通りには連続性が足りない！」

## 3. 解決策

国際通りに2種類の連続性を保つことによって魅力ある通りとする

国際通りの入り口と外との連続性を保つために

### 府中特産品直売所

国際通りの入り口に位置し、多くの市民が利用してにぎわっている「府中特産品直売所」。現在はけやき通り側にしか入り口がないが、国際通り側にも入り口を作れば通りへの導入部分となる。

### 入り口の看板の改善

・やや奥に移動させることにより、けやき通りから見やすくなる。  
・現在の看板を大きくしてアーチ型にする。

→これらにより、国際通りの存在感をアピールする。

### 国際通り案内マップの設置

国際通りの店舗の名前や種類を書いた案内マップを設置することにより、人通りを増やす。

### 国際通り内部の店舗の連続性

## 2. 国際通りの目標すべき方向と現状

国際通りは、地域住民の生活空間の中に商店が建ち並んでおり、そこには生活空間ならではの居心地の良さがある。そのような、人が歩き、立ち止まり、話す事に適した空間では、地域と結びついた魅力が必要となるはずである。

### 「国際通りに地域と結びついた魅力を取り入れる」

地域と結びついた魅力を活性化に取り入れたい。そのためには地域住民や土地所有者が主体となる商店街づくりを実現しなければならない！

#### 国際通りの現状

・駅前から近いかけやき通りに分断されているため、商店街としては衰退気味。

・入り口付近が駐車場となっているなど、店舗のない空間が目立つ。

・夜はサラリーマンが多く、スナックやパブが営業している。

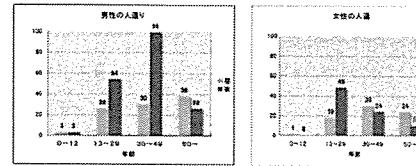
#### ①国際通りの店舗の種類



ただし、居酒屋、飲食店のうち昼間営業しているのは、居酒屋5軒、飲食店5軒のみである。



国際通りには夜の店が多い



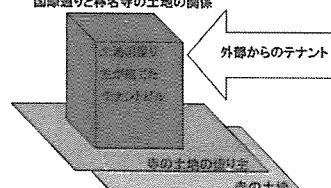
※調査は昼が13：30～14：00、夜が21：30～22：00のそれぞれ30分間行った。

国際通りは夜のほうは人通りが多い。また、夜の客層は中高年のサラリーマンが多い。しかし中年女性やお年寄りは夜間のほうが少ない。さらに、女性は全体的に少なく、子供は昼も夜もほぼ通っていない。→昼間の人通り(特に女性や子供)を増やすことにより、さらに活気が出るはずである。

### →駐車場やマンションの1階部分などの店舗のない空間をなくす！

### 「なぜ国際通りには店舗のない空間が多いのだろうか？」

#### 国際通りと称名寺の土地の関係



通りの南側はほとんど称名寺の土地で、昔から事業者や住民に安い値段で貸し出されている。  
→賃料が少しくらいでいい！

#### 恩賜環を断ち切る

商店街を活性化させるためには、その商店街の担い手に元気を取り戻してもらわねばならない。前述のように、国際通りでは地主や、商店経営者の危機感が薄く、経営努力をあまりしなくてもやっていけるという風潮が流れている。このままでは、商店街としての魅力を出すことが困難である。何とか恩賜環を断ち切らなければ、現在の状態が続いているだろう。

#### く經營努力を促すための方策

#### 「譲税による商業活性化」

空き店舗や駐車場に対し、年々増加する形の「譲税」を行うことにより、テナントビル経営者、

駐車場経営者としての危機感を持たせる。

→空き店舗や駐車場が店舗へと変わり、連続性が出て活気が生まれる。  
ベルギーのハッセルト市では、この方法で市内に400棟近くあった空き店舗が、現在では20棟程度まで減少しているようである。

## 今後どう

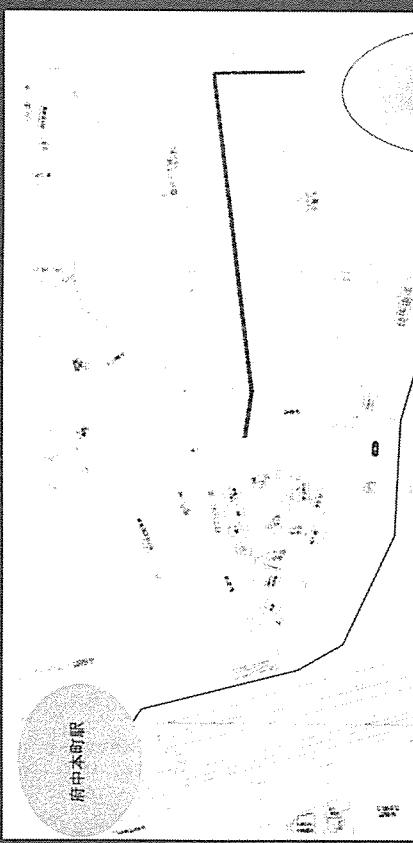
これらの計画を実行することによって土地所有者や事業者に経営意欲が生まれ、連続性のある魅力的な通りが形成される。それによって地域住民の関心が高まり、活気があり、地域の人たちから高い関心を持たれる国際通りができるはずである。

## コンセプト

現況は50～60代の男性の人たちしか店を利用していない。また、同じ形式の店舗が11戸連なつてるのでバリエーションが無く他の客層が利用しづらくなっている。これらの点を改善するために競馬場を利用する他の客層向けの店をつくることで、年齢・性別を問わず食事ができる空間をつくることを提案する。景観を損ねていた簡易テーブルと椅子を、可動式座敷を設けることで改善させる。

府中駅周辺の魅力発見とハワーアップの提案

## 一競馬場付近の活性化—



周辺道路はきれいに整備され、景観が良いのにに対し、ここは活気が無く道具などが店先に放置されている。

現在の客層は50～60代男性が中心で、若者や女性は店に入りにくく、常連の空間は狭く、新たな客層をターゲットとした店を探求を

店前に駐車場を設けて、入口を広く取る

店前での排泄やゴミの放置などににより、衛生的に悪い

外からも入れるトイレを各店舗に設置する

環境を整えることで、モラルのある行動をとれるようにする

店舗が行われていない日には、簡易テーブルと椅子が古いビニールシートで覆われ、見た目がよくな

い、今までのスタイルが備え付けられた可動式座敷を設け、取り扱う

大久保みのり、小野寺前嶽島泰沙里、鶴川さやか

柳岡タ賀子、中田暢子、山本夏絵

3年

文化女子大学生園デザインコース

コンセプト

## 現況によつてエリアを分け、さらに各店舗にアプローチしやすい環境を作り出す。

## ファミリーエリア

## 常連エリア

## 競馬場から離れた場所に設置することで他の2店とは区切られた空間にする

## 可動式座敷

## 特徴

## すべての面を壁にしないことで2つの可動式座敷をつなげることができる少人数からグループ客まで対応できる

## 用点

## 競馬場が休む16時以降は

## 店内に誰もいないため、可動式座敷を並べて使う

## 店舗前に座敷が出ていること

## 馬場から裏にいること

## で馬場から裏にいる

## 開口部を過ごせる空間

## を開口部とする

## 開口部を設ける

現況は50～60代の男性の人たちしか店を利用していない。また、同じ形式の店舗が11戸連なつてるのでバリエーションが無く他の客層が利用しづらくなっている。これらの点を改善するために競馬場を利用する他の客層向けの店をつくることで、年齢・性別を問わず食事ができる空間をつくることを提案する。景観を損ねていた簡易テーブルと椅子を、可動式座敷を設けることで改善させる。



現況によつてエリアを分け、さらに各店舗にアプローチしやすい環境を作り出す。

競馬場に一番近くに設置することで、入りやすい空間にする

競馬場から離れた場所に設置することで他の2店とは区切られた空間にする

可動式座敷

特徴

すべての面を壁にしないことで2つの可動式座敷をつなげることができる少人数からグループ客まで対応できる

用点

競馬場が休む16時以降は

店内に誰もいないため、可動式座敷を並べて使う

店舗前に座敷が出ていること

馬場から裏にいること

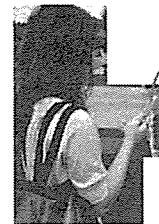
で馬場から裏にいる

開口部を設ける

馬場から裏にいること



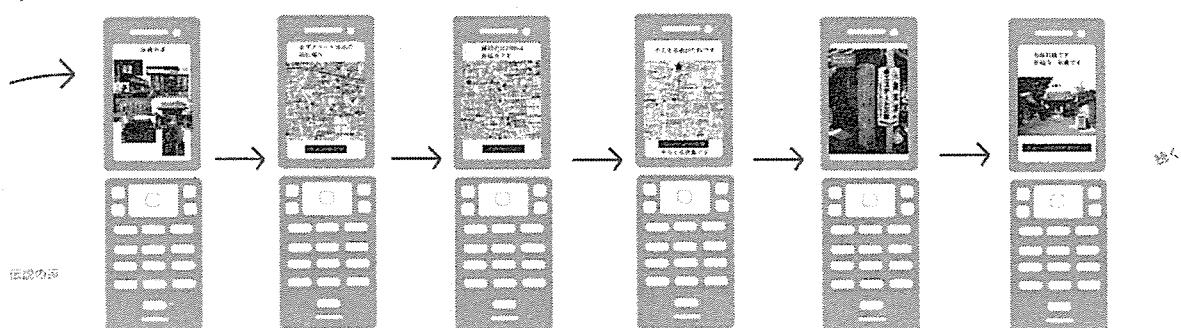
携帯電話を1



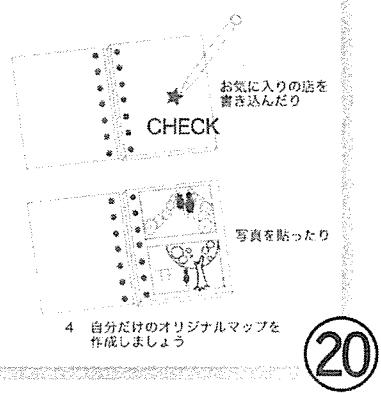
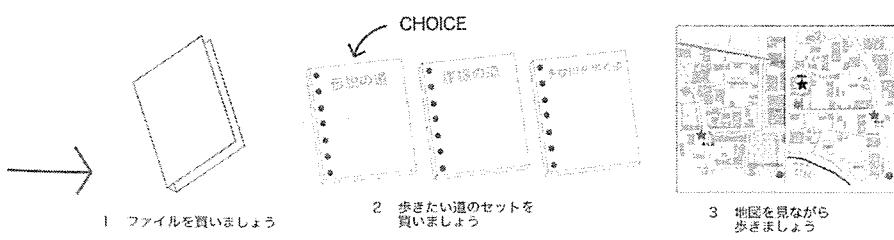
府中オリジ



使ったナビゲーションシステム



ナル散策ブック



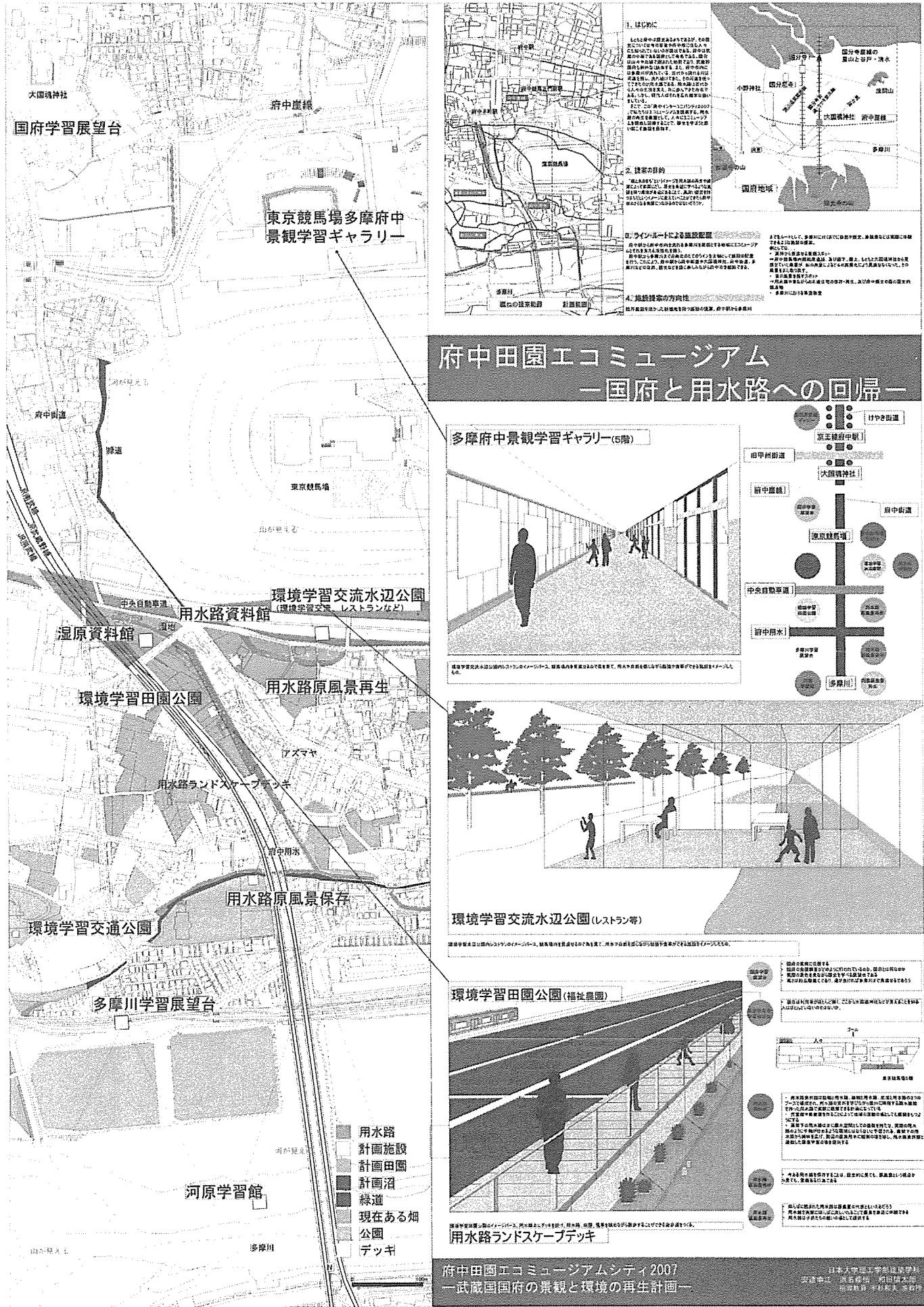
20

特別賞

## 「府中田園エコミュージアム」

(日本大学)

作品 No. 9



## 提案一覧と概要

### 府中の快適空間、魅力パワーアップの提案一覧と概要

府中インターニューシティ2007で出された提案作品は32であった。その一覧は下記の通りである。

記載の内容は以下の通り。

「作品番号、作品のテーマ」、「大学・学部・学科・研究室名・学年」、「提案者名」

#### (1) 「ファッショナブル メルカート

##### —聖と俗の共存—

\* 多摩大学 経営情報学部 経営情報学科 2年  
 \* 安居淳  
 大山真司  
 福山直晃  
 高橋史也  
 貫洞悠介

#### (2) 「リバータル都市・府中

##### —大国魂神社を中心とした町づくり—

\* 多摩大学 経営情報学部 経営情報学科 3年  
 \* 青木祐太  
 東田将真  
 鈴木芳哉  
 西条貴規（2年）  
 九澤正実（2年）

#### (3) 「SUNDO —新たな歩道空間—

\* 東京電機大学 情報環境学部 地域環境デザイン学科 4年  
 \* 平井学

#### (4) 「感性・知識・仮想（メディア）を用いたデザイン支援システム」

\* 東京電機大学 情報環境学部 地域環境デザイン学科 4年  
 \* 山口麻美

#### (5) 「足を止めて憩える街

##### —桜通り魅力アップ計画—

\* 東京農工大学 農学部 地域生態システム学科 3年  
 \* 市川三友紀  
 大橋あゆみ  
 大林沙綾子  
 金森千沙  
 吉田由莉

#### (6) 「合同庁舎前通りの魅力向上

（称名寺参道、2Fの看板撤去）」

\* 東京農工大学 農学部 地域生態システム学科 3年  
 \* 山田愛子  
 安達加奈子  
 板垣友規子  
 柚木英恵  
 渡辺なつ樹

#### (7) 「ゆったり満喫できるけやき通り

（課題：路上駐車、駐輪、看板）」

\* 東京農工大学 農学部 地域生態システム学科 3年  
 \* 吉田純平  
 菅澤承子  
 山口美香  
 座間さやか  
 古川結花  
 塚島幸太

#### (8) 「国際通りに活力を（課題：連続性）」

\* 東京農工大学 農学部 地域生態システム学科 3年  
 \* 中原一成  
 斎藤正佳  
 淀川茂  
 村上耕隆

#### (9) 「府中田園エコミュージアム

—国府と用水路への回帰—

\* 日本大学 理工学部 建築学科 4年  
 \* 濱名修悟  
 和田慎太郎  
 安達幸江

#### (10) 「FUCHU RENTAL BICYCLE SYSTEM」

\* 文化女子大学 造形学部 住環境学科 4年  
 \* 荻原友美恵

#### (11) 「FLOOR RIBBON (府中公園と

同左公園前桜並木)」

\* 文化女子大学 造形学部 住環境学科 4年  
 \* 吉原由佳梨

#### (12) 「府中駅けやき口の提案」

\* 文化女子大学 造形学部 住環境学科 4年  
 \* 栗原咲恵

- (13) 「競馬場付近の活性化」  
 \* 文化女子大学 造形学部 住環境学科  
 住居デザインコース 3年  
 \* 大久保みのり  
 小野寺萌  
 鮫島奈沙里  
 武川さやか  
 鶴岡夕貴子  
 中田暢子  
 山本夏絵
- (14) 「けやき並木沿いの看板改善」  
 \* 文化女子大学 造形学部 住環境学科  
 住居デザインコース 3年  
 \* 清水彩加  
 中村祐子  
 白田百合恵  
 金子尚央  
 粟山江梨子  
 勝間田なつみ  
 李●順（注：●はニンベンに京）  
 小木曾瑠子
- (15) 「Creating Circulation」  
 \* 明治大学 理工学部 建築学科 3年  
 \* 亀田康生
- (16) 「けやき並木と生きる」  
 \* 明治大学 理工学部 建築学科 修士  
 1年  
 \* 青柳晴徳  
 吉田匠  
 堀内一毅
- (17) 「REUSE, REDUCE, RECYCLE  
 ちょこりんスポットの改善—」  
 \* 明治大学 理工学部 建築学専攻 修  
 士1年  
 \* 関宏光  
 大塚悠樹  
 大川原俊之
- (18) 「scenery flow into galleries」  
 \* 明治大学 理工学部 建築学科 3年  
 \* 廣松佑介
- (19) 「SYMBOL PATHS  
 一けやき並木の二層化」  
 \* 武蔵野美術大学 4年  
 \* 西加那子
- (20) 「Enjoy Your Road  
 —携帯ナビゲーションシステムと  
 府中オリジナル散策ブック」  
 \* 武蔵野美術大学 4年  
 \* 保手濱絢子
- (21) 「まちの作り方—旧甲州街道沿い」  
 \* 武蔵野美術大学 4年
- \* 山本ゆき  
 (22) 「ペットボトルでつくろう  
 『ヒカリの壁』」  
 \* 武蔵野美術大学 4年  
 \* 渥美舞  
 (23) 「快水空間～用水路復活計画～」  
 \* 武蔵野美術大学 4年  
 \* 富澤理栄子  
 (24) 「競馬場の要素と地域限定を合わせる  
 ことで競馬場の新しい在り方を提案す  
 る」  
 \* 工学院大学 大学院 修士1年  
 \* 志村剛  
 清水柘人  
 峰岸侑香  
 川崎香織  
 徳永  
 (25) 「折り重なる時間  
 一府中における境界操作の意義」  
 \* 工学院大学 大学院建築学専攻 修士  
 1年  
 \* 園田聰  
 土田康太（研究生）  
 (26) 「武蔵国府八幡神社」  
 \* 女子美術大学 デザイン学科 環境デ  
 ザインコース 3年  
 \* 藤野香澄  
 (27) 「LOTUS PARK  
 —寿中央公園再設計提案」  
 \* 女子美術大学 3年  
 \* 町田絵美  
 (28) 「POP-Cup square—宮西町広場」  
 \* 女子美術大学 3年  
 \* 小原可奈子  
 (29) 「Tie Station—駅広  
 ペデストリアンデッキの改造提案」  
 \* 女子美術大学 3年  
 \* 渡邊美土里  
 (30) 「馬籠塔前広場」  
 \* 女子美術大学 デザイン学科 環境デ  
 ザインコース 3年  
 \* 藤瀬麻里  
 (31) 「OCEAN TUNNEL 一府中駅  
 北自転車駐車場入口の改造」  
 \* 女子美術大学 デザイン学科 環境デ  
 ザインコース 3年  
 \* 富田菜美  
 (32) 「circle cycle bicycle」  
 \* 女子美術大学 デザイン学科 環境デ  
 ザインコース 3年  
 \* 前川綾子

# 「府中インター ユニバーシティ」 に参加して

**中嶋 猛夫**

NAKAJIMA TAKEO  
女子美術大学

2006年の11月に「府中建築文化フォーラム」の土田旭さんより「府中インター ユニバーシティ」の企画説明会の連絡をいただき、12月16日の説明会に参加した。

当日は府中駅前のグリーンプラザに6大学の先生方が集まり、府中の地図や資料を渡され主旨説明をしていただき、面白い企画なので私の担当授業(環境デザインの3年の4週間授業「スマートパブリックスペースの再設計」)で再設計対象地域を府中駅周辺とし参加する事を申し入れた。

授業は5月21日から6月23日の期間で、学生は環境デザインの3年生の半分の18名で初日に現地見学会を行い学生達と共に府中駅から、大国魂神社やケヤキ参道、競馬場の方まで歩きまわり再設計対象を探し回った。

授業内容は毎年、再設計対象は学生各人が発見し、類似事例や資料収集を行い現況分析、コンセプト創り、全体構想から詳細決定まで基本構想から基本設計レベルまで各人異なるが主提案をA1パネル2枚と設計説明書、

B2→B3サイズの模型とオルタナティブ案をA1パネル1枚と設計説明書でプレゼンテーション。

このプロジェクトで学生達は様々なスマートパブリックスペースを再設計対象に選び、熱心に取り組んでくれ質の高いものや面白い視点や飛んでる提案などバラエティーに富んだ内容がプレゼンテーションされた。

18作品の内の7作品の主提案A1パネル2枚を7月16日に府中グリーンプラザ別館ギャラリーに搬入し、21日まで展示して市民の方々にみていただき、最終日の午後に学生提案プレゼンと講評、審査会が開かれた。

女子美の学生達の提案は具体的、美的造形性を重視しているので判り易く市民アンケートで好評を得たが、審査好評会の審査基準が計画性を重視していたので表彰はされなかつた。

9月のデザイン学会の秋季大会の学生プロポジションに4作品を応募しその造形性とプレゼン内容は高く評価された。

女子美の学生達の提案の一部を紹介します。

図1 府中駅地下駐車場入口の改造

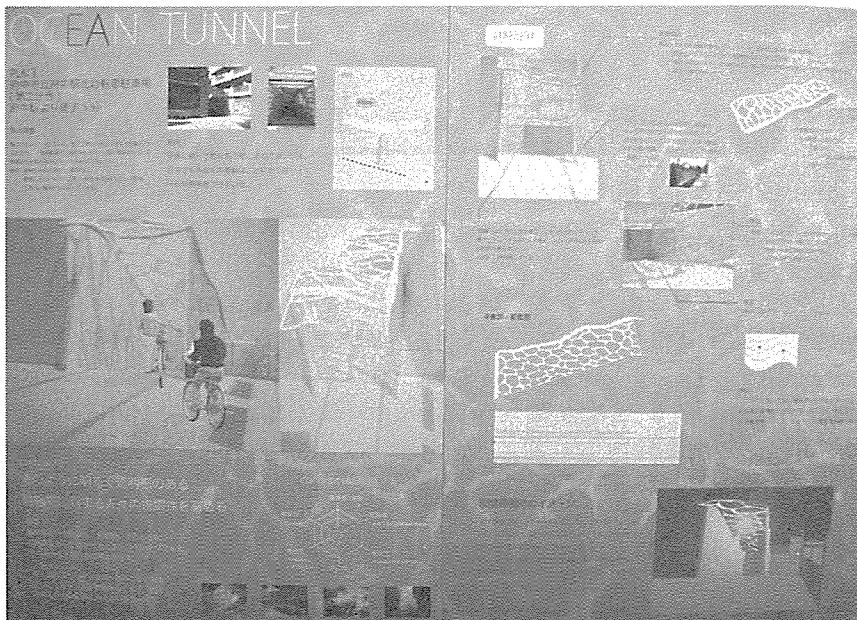


図2 馬頭塔前広場



図3 八幡神社

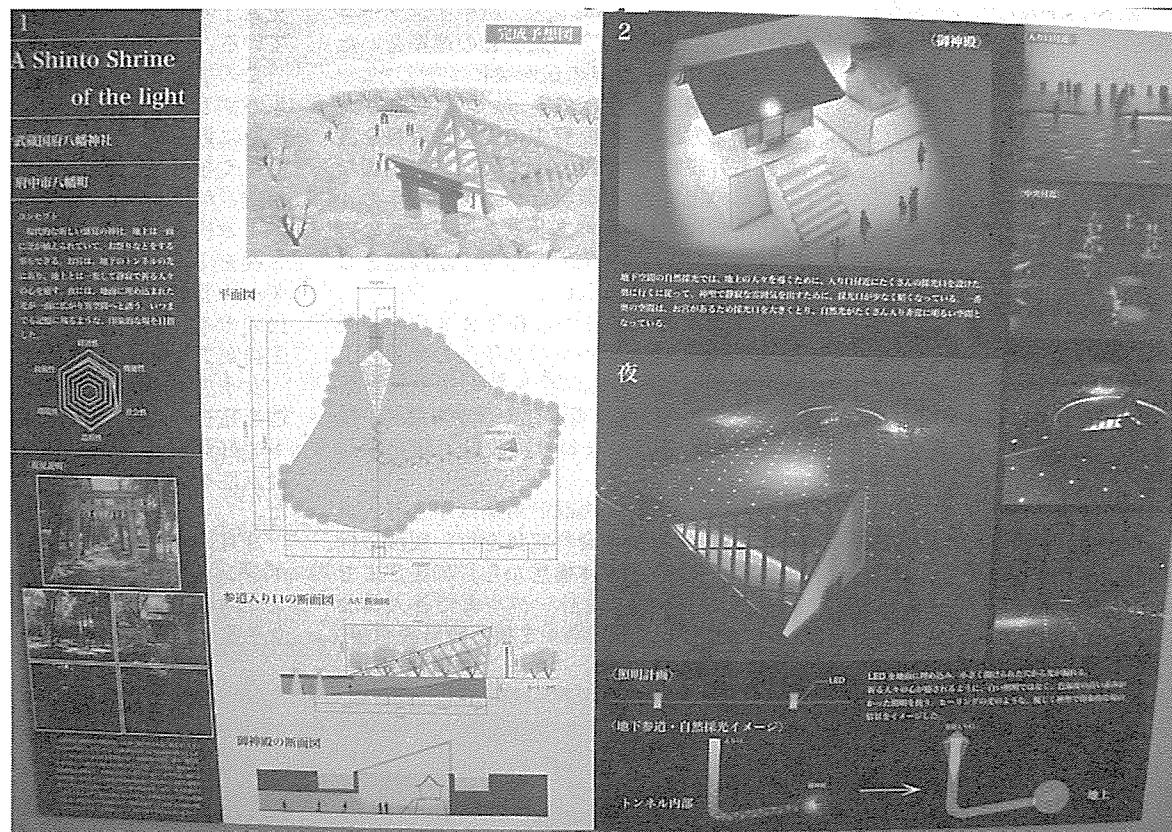


図4 駅前広場の改造



## 問われる連携の質

山本 俊哉

YAMAMOTO TOSHIYA

明治大学建築学科准教授

大学の果たす使命は、教育と研究を通じて広く社会に貢献する点にあるが、最近はより直接的な社会貢献が求められている。すなわち、学内における教育だけでなく、積極的に学外に出て実社会と接しながら人材を育成するとともに、社会のニーズに対応した研究課題を掘り下げ、その成果をより具体的に社会還元することが期待されている。

もとより、建築・都市計画の分野は、こうした実践的な教育や研究が必要とされ、実際に様々な取組みがなされてきたが、最近は今まで以上にオフィシャルで形の見える取組みが求められている。

こうした状況下で企画された「府中インターユニバーシティ2007」は、大学側にとって棚から牡丹餅のような機会であった。府中のように地元の市民活動団体が全てをお膳立てし、大学のカリキュラムと関連づけて取組める機会はめったにない。

その前例となった「インターユニバーシティ神田」でも、大学や大学院の授業と絡めて行われたが、参加した6大学の教員が企画段階から準備運営まで全てに関わった。日本都市計画家協会が協力して毎年開催している「大学・地域の協働による学生まちづくりプレゼンテーション大会」は、主催する東京商工会議所と開催区等がお膳立てしているが、夏休みを挟んで実施するため、大学の授業カリキュラムと絡めにくい。

府中の場合は、前年の12月に企画と実施スケジュールが発表されたため、それに係る内容を大学のシラバスに反映する等、前もって準備を進めることができたし、府中住の名だたる建築家・都市計画家らの企画であり、しかも多くの大学が参加して優秀作品を選考することもあって、他の教員の協力を得る上でも十分な条件が整っていた。

学生にとっては、顔の見える相手に対する提案であるため手応えが期待できる上、腕試しの機会になり、しかも表彰の対象になれば彼らの実績になる。明治大学では、学部3年生の設計演習と大学院の授業をこの取組みに絡ませたが、府中の課題を選択した学生の多くは、そうしたチャレンジングなプログラムに惹かれて履修したようである。

府中建築文化フォーラムが提案の対象範囲として定めた大国魂神社馬場大門けやき並木周辺の中心市街地は、地域の歴史的空間的文脈解説が明快で、しかも景観形成上の問題が明確であるだけに、予め用意していた大学又は大学院の科目の学習目標を達成する上で格好な題材であった。

以上のように、「府中インターユニバーシティ2007」は、大学側から見れば、教育上の効果が期待できる機会であったし、少なくとも明治大学においては、履修学生に対する教育上の効果は見られた。また、地域と連携した大学の取組みを対外的に示す格好の機会にもなった。

しかし、地域（府中の関係者）にとって、どの程度効果的な取組みであったかは、議論を要する。府中のケースに限らず、この種の取組みはイベント性が強い。すなわち、地域が抱える問題や課題

を浮き彫りにし、社会的な注目を集め機会となり得る。また、開催に関与した団体や提案者にとってパブリシティを得る機会にもなり得る。しかし、それだけで課題解決の処方箋が得られる訳ではない。

府中の関係者の中には、もう少し実効性の高い提案を期待した人がいるかもしれない。筆者自身、長年まちづくりコンサルタントに携わってきた経験から、こうした期待にはできる限り応えたいと思っている。しかし、所詮学生の主体性を重視した提案である。現実性はある程度目をつぶらなければならないし、教育上の学習目標を優先せざるを得ない。

大学教員も専門家であるから、研究室として学生と一緒に取組み、コンサルタントに負けず劣らずの提案を期待したいという向きもあるかもしれない。筆者も外部競争的研究資金を得て、いくつかのフィールドで実践的な研究を進めている。大学としてできるだけ多くの競争的研究資金を得ることが昨今の必須課題となっている事情もある。しかし、あくまでも研究の枠組みの中で行っているものであり、コンサルタント業務については外部に委ねている。もちろんやむを得ず引き受けざるを得ないケースもあるが、安々と引き受けるわけにはいかない。「大学に頼めば安く充実した成果が得られる」と自慢する大学教員がいるが、場合によってはコンサルタントと競合し、コンサルタントファームの更高的価格破壊を招くおそれがある。こうしたこともあるって、委託できる部分は外部のプロに委託し、学生はプロと一緒に基礎的調査やワークショップ等を行うようしている。そうすることにより、学生にとってはジョブインターンシップになるし、研究課題の掘り下げの機会になります。これからは、大学とコンサルタントの連携のあり方も問われているものと思われる。

話を府中に戻すと、今回の取組みは、やや戦略性が見えにくかった点が残念に思われる。諸般の事情から戦略性を出しにくかったのかもしれない。

全国都市再生モデル調査として行われた「インターユニバーシティ神田」は、戦略的に取組んだ結果、その後地元が動き、神田神保町の古書店街に「本と街の案内所」がオープンし、「神保町に行こう」等の地域ポータルサイトが次々と開設され、明治大学図書館等との連携も具体化している。

建築・都市計画分野は、神保町の取組みのように軽やかに動きにくい面があるが、単なるイベントで終わるのはややもったいない気がする。かといって、同じようなことを行うことはヴィエンナーレにせよトリエンナーレにせよしんどいだろう。大学と連携するのであれば、形にとらわれず、実質を重視する。府中の中心市街地もそうした段階に入っているような気がする。

## 1. 新会員の紹介

2007年7月～12月の入会者は下記の通りです。(入会順、敬称略)

12月31日現在の会員数は、442名です。

正会員氏名	勤務先(会社)
平松 早苗	女子美術大学(関東)
石井 美紀	日本興業(株)(関東)
加賀有津子	大阪大学大学院(関西)
尾家 建生	大阪観光大学(関西)
茂手木 功	(株)日本都市総合研究所(関東)
井上 仁	(株)積水樹脂デザインセンター(関西)
中島 浩	玉野総合コンサルタント(株)(中部)
松田 芳夫	中部電力株式会社(関東)

## 2. 退会者(2007年7～12月)

岩佐倫太郎、出来信久、富賀見佳、宮前さやか  
(敬称略)

## 3. 住所変更等(敬称略)

氏名	変更内容(新)
相庭 晴一	(株)IBA環境計画研究所 〒171-0014 豊島区池袋3-15-18 Tel. 03-3972-3715
於保 泰正	景観生態研究所 〒842-0201 佐賀県神埼市背振町広瀬1644 Tel. 0952-59-2313
加茂みどり	大阪ガス(株)エネルギー文化研究所 〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2
小浪 博英	帝京平成大学現代ライフ学部 〒290-0193 市原市潤井戸2289 Tel. 0436-74-5695 FAX. 74-3970
高木 淳二	(株)高木富士川計画事務所 〒862-0908 熊本市新生1-1-11 Tel. 096-247-7277 FAX. 247-7255
田中 一雄	(株)GKデザイン機構 〒171-0033 豊島区高田3-30-14 Tel. 03-3988-4131 FAX. 3985-7780
宮迫 勇次	復建調査設計(株) 〒732-0052 広島市東区光町2-10-11
柳田 良造	岐阜市立女子短期大学 〒501-0192 岐阜市一日市場北町7-1 Tel&FAX. 058-296-4181

## 編集後記

かれこれ10年ほど前、島根県の浜田市で開催された「大学を核としたまちづくりシンポジウム」にパネリストとして出演したことがあります。そのときのコーディネーターは望月照彦・多摩大学教授でした。21世紀型キャンパスタウン創造に向けて、大学のあり方について熱く議論したことを思い出します。

地域に大学があるということは、地域がいながらにしてシンクタンクを持つことでもあります。すなわちこれからの中には、地域のシンクタンクとしての役割をいかに果たすのか、ということが問われてくるのではないかと思います。

今回の特集テーマ「大学と地域の連携のまちづくり」では、1つの大学だけでなく、地域にある複数の大学が連携して街の魅力向上に取り組んだ「府中インターユニバーシティ2007」を具体例として紹介しました。

企画は白濱力、中嶋猛夫、松村みち子の3名が行い、原稿依頼や編集の細かい作業は松村が担当しました。発行が予定より大分遅れてしま

いましたこと、お詫び申し上げます。

貴重な提言、資料をお寄せくださいました土田旭様、安部貞司様、山本俊哉様、まことにありがとうございました。受賞作品からは、学生たちの瑞々しい感性が伝わってきます。

関係者の皆さまに改めて心より御礼申し上げます。

(編集担当：白濱力、中嶋猛夫、松村みち子)

## 広報委員会

白濱 力	石崎 均
澤木 俊間	伊藤 光造
土田 旭	加茂みどり
近田 玲子	河本 一行
菅 孝能	松山 茂
中嶋 猛夫	横山あおい
櫻井 淳	吉田 慎悟
松村みち子	横山 裕
島 博司	作山 康